



## 第 16 回

# 日本体験学習研究会全国大会 大会報告

発行：第 16 回日本体験学習研究会全国大会運営委員会事務局

発行日：2015 年 2 月 9 日

## 多様な分野に活かせる体験学習の可能性

### 第 16 回日本体験学習研究会全国大会を終えて

日本体験学習研究会第 16 回全国大会も、たくさんの参加者のご協力のもと、盛会に終わることができました。今年は「多様な分野に活かせる体験学習の可能性」というテーマで、企画・運営を行いました。このテーマは、1999 年の第 1 回全国大会スタート時に考えていた、「さまざまな領域で体験学習がすでに実践されていて、その実践されている人々が相互交流できる場を創ろう」という思いを大切にしましたので、これを基に第 16 回大会の運営を目指しました。

恒例の 3 時間にわたるエクササイズ・セッション、1 時間のレポート・セッションが幅広い領域の方々によって行われました。学校教育と体験学習、社会変革と体験学習、企業内教育と体験学習、環境教育と体験学習、国際理解教育と体験学習、看護・医療と体験学習、人間関係づくりと体験学習など多くの分野で活躍されている方々の発表があり、有意義な 2 日間を過ごすことができました。

また、今大会は、開会で「ウェルカム・セッション」、一日を終えるに際し「シェアリング・セッション」、二日間のプログラムを終えるにあたり「ディパーチャー・セッション」と題して、参加者の皆様方の気づきや学びの交流の場を設け、体験学習の学びの広がりを実感していただく試みをいたしました。参加者の皆様からはたくさんの学びが得られたとの声をいただき、ホッとしています。

また、全国規模の学会や研究会としては、懇親会への出席率はかなり高い会だと思えますが、例年にまして懇親会の場も大いに盛り上がりました。こうした参加者の方々とセッションを通して、また懇親の場を通して学び合えるつながり合える研究会をさらに充実していきたいと考えております。

来年度も第 17 回大会にて多くの方とお会いできることを楽しみにしています。

第 16 回日本体験学習研究会全国大会 運営委員長 津村俊充

## ウェルカム・セッション報告

開会に引き続き行われたウェルカム・セッション。まずは担当者より、セッションのねらいをお伝えした後、『Seven Steps』の歌とダンスに合わせながら、「10 人組」「出身都道府県」「誕生月」などのテーマでグループを作り、自己紹介を兼ねた出会いを楽しみました。12 月生まれの人たちをお祝いしようとした所、偶然にも当日がお誕生日の方もいらっしゃるとわかり、皆で Happy Birthday を歌ってお祝いしました♪

『ぴったしキャンディ』では、無言で、まず自分と同じ「今の気持ち」を感じていそうな人を探し出してペアを作ってわちあい、次に、自分とは違う「関心分野」をもっていそうな人と 4 人組をつくり、わちあいをしました。ぴったりと合った組には、ご褒美のキャンディも配られました。最後は、「この 2 日間の大会で、どんなことを見つけてみたいですか？ 自分の幅をどのように広げてみたいですか？」という問いかけで、それぞれの思いをわちあいました。

歌って踊って動き回ってにぎやかな雰囲気 60 分となりましたが、お楽しみいただけましたでしょうか？

参加者お一人お一人がご自身の思いを確認し、これから共に過ごすメンバーへの関心を広げるような時間となっていたのであれば幸いです。

(文責:北倉武昭・中尾陽子)

## 初めて参加の方のための ワークショップ報告

「体験学習を体験するー『体験学習』と出会うー」

1日目 13:30 から3時間、初めて参加の方に対するワークショップを実施しました。当初の申し込みが6名で、当日に3名の追加があり、参加者は9名でした。スタッフの学生も参加して、10人での実習となりました。

はじめの挨拶・導入の後で「3つの窓」の実習を3~4人のグループで行いました。まず、今の気持ちを絵や形で表現してもらいシェアをして、次に言葉で「今日の取り組みで知りたいこと、分かってほしいこと、感じたいこと」を記入し、シェアしてもらいました。

その後に、「EIAHE'のサイクル」「コンテンツとプロセス」に関する小講義を行いました。当初は時間を20分から30分と予定していましたが、40分を超えて熱心に意見が交換されました。質問の例を挙げると「自分の現場でこのようなことが起きているが、それは具体的に言うと EIAHE'のどの部分に当たると考えられるのか」「『指摘』と『分析』ははっきりと区別できるのか、曖昧な面もあるのではないのか」「理系の自分から見ると、『分析』が公式化、『仮説化』が公式の応用に当たるように思われるがいかがか」「文脈によっては、コンテンツでもありプロセスでもあるというものもあるのではないのか」などの意見がありました。質問に対して、ファシリテーターと一緒に考え、参加者の意見も取り入れながら納得のいく答えを探していくことを通じて、参加者・担当者ともに概念に関する深い理解へとつながる時間となったと考えられます。予定を超過しての話し合いでしたが、このワークショップ全体を表すような実りある時間でした。

休憩をはさんで、「共に学び合う関係を築くために大切なこと」というコンセンサス実習を行いました。5人ずつ2つのグループで実施しました。どちらのグループも、男性3人女性2人となり、世代も幅広いグループになりました。まず個人で「共に学び合う関係を築くために大切にしたいこと」を記入した後、全員のアイデアを模造紙に書き出しました。その後、個人でベスト3を選び、さらに、グループでベスト3をコンセンサスで決定することが求められました。どちらのグループも、積極的に話し合いがもたれていました。

短い休憩の後で、ふりかえりを行いました。両グループとも肯定的で和気あいあいとした印象でした。時間が限られていたため「3つの窓」の最後、「今日の取り組みで知ったこと、わかったこと、感じたこと」は個人記入だけでシェアはしませんでした。

終了後には、写真を一緒に撮り連絡先を交換している人たちもいて、よい雰囲気です。「体験学習」について学ばれたようでした。この実習そのものが「共に学び合う」構造になっていて、その場での体験を通じた気づきを深める実習になっていたのではないかと思います。

(文責:土屋耕治・溝口良子)

## シェアリング・セッション報告

1日目の気づきや学びを参加者と共有し深めるとともに、2日目に向けたエネルギーを高めることを目的に、今回初めて実施されたシェアリング・セッションには90名を超える方にご参加いただきました。

最初に、シェアリング・セッションのねらいを説明し、会場前で配布したポストイットに個人のふりかえりを記入して頂きました。記入後、3~4人の小グループになって、今日の学びや気づきを共有しました。ファシリテーターからは呼び水として「わくわく」「広げる」「深まる」などのキーワードを会場に掲示し、「化学反応を起こす」「幅が広がる」「新たな気づき生まれる」など、わかちあうことの目的を確認しました。

最初のわかちあいの後、今度は「明日へのエネルギーが生まれる」ことを目的に改めて小グループに分か

れ、2日目の参加に向け、それぞれが挑戦してみたいこと、深めてみたいことなどを共有しました。

共有セッションが終わった後は、翌日のエクササイズ・セッション、レポート・セッションの紹介を行い、シェアリング・セッションを終了しました。特に1日目のみの参加者にとっては、他の参加者とわかちあいを行う機会となり、有意義な時間となったのではないのでしょうか。2日間参加される方にとっても、翌日のセッション参加へのモチベーションを高める機会となったのであれば幸いです。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

(文責：稲葉久之・國武恵)

## ディパーチャー・セッション報告

大会最後のディパーチャー・セッションは、南山大学大学院教育ファシリテーション専攻のM1(修士1年)が企画しました。このセッションでは、「2日間の体験から気づいたことや学んだことをふりかえり、多様な分野に活かせる体験学習の可能性に気づく」と「気づきや学びをどのように自分の分野に活かすかを考える」をねらいとし、ふりかえりやわかちあいをしました。まず、「どんな体験をし、どんなことを感じたか?」「体験学習を活動に活かしているどんな人に会ったか」をペアでシェアしました。その2つのペアが一緒になり「体験学習にはどんな分野でどんな可能性があると思うか?」を考え4人でシェアし、さらに8人になり「今回の気づきや学びを踏まえて、今後具体的にどのような場面で何をしたいか?」を宣言しあいました。最後は、全体場で気づきや思いを発言してもらいました。体験学習を活かすアプリの開発に盛り上がり、悩みながらも試行錯誤している人たちの発言に勇気づけられたりして、多様な分野で活動する人々から、未来へ向けての建設的な発言がなされました。

M1にとっても実りある体験の機会をいただきました。温かく見守っていただいた諸先輩と先生方にお礼申し上げます。

(文責：山田達哉)

## 会計報告

今年度は、残念ながら赤字決算となりました。今回の大会は、昨年と同様の参加者および広告協賛を得られ、収入にはほとんど変化がありませんでした。しかし、大会ホームページ移設のための経費が発生したこ

### 【収支報告】2014年12月23日現在

#### 大会

##### 【収入の部】

大会参加費	407,500
広告協賛	110,000
その他	354
計	517,854

##### 【支出の部】

印刷費	156,587
郵送費	6,396
事務局費	83,268
大会運営費	348,793
計	595,044

大会収支総計  $\Delta$  77,190

#### 懇親会

##### 【収入の部】

懇親会参加費	215,000
--------	---------

##### 【支出の部】

懇親会費	206,878
------	---------

懇親会収支総計 8,122

全体の収支総計  $\Delta$  ¥69,068

と、多くの学生スタッフの協力を得られアルバイト費用が増加したこと、消費税率アップによる全体的な微増などから、例年よりも支出が増えてしまいました。運営委員を積極的に活用して謝礼金を抑える努力もしましたが、及びませんでした。今回の赤字だけについて言えば、これまでの繰越金でやりくり可能な範囲ではありますが、この研究会の輪を更に広げていく意味でも、もう少し大会参加者数を増やしていく努力が必要なのではないかと感じています。みなさま、どうか周りの方々をお誘いの上、本大会へご参加くださいませよう、ご協力をお願いいたします！

(文責：中尾陽子)

**第 17 回大会に向けて** 12月5日(土) 6日(日)  
～第 17 回大会は 2015 年 ~~11 月 28 日(土) 29 日(日)~~ です～

第 16 回大会にご参加いただいた皆様、大会初日には雪が降るような寒い日でしたが、南山大学までお越しください、誠にありがとうございました。また、第 16 回大会の運営委員は史上最大の 17 名で、運営委員のみなさんが 4 回の運営委員会に足を運んでくださり、大会当日もご尽力くださったこと、感謝しています。毎年感じることで、今回はさらに感じましたが、私たち南山大学のスタッフだけでは、この日体研は実施できません。運営委員の皆さん、発表者の皆さん、教育ファシリテーション専攻 M1 の皆さん、学生スタッフの皆さんなど、多くの方々のお力とご尽力によって、この日本体験学習会全国大会が実現できています。特に、私などは多忙化する一方の大学の業務などのために、日体研のことが後手に回りがちで、事務局の水野さんや若手の土屋さんが仕事を推進してくれて助けられています。

来年度の第 17 回日本体験学習研究会全国大会は ~~11 月 28 日と 29 日~~ に南山大学で開催いたします。17 回大会の発表申し込み方法などは決まり次第、メールの「日体研通信」でお知らせをします。日体研通信のメールアドレス登録をなされていない方は、以下の大会事務局アドレスに、タイトルを「通信希望」と記して、お名前とメールアドレスをお送りください。

第 17 回大会の運営委員の募集も、これまでと同様に完全公募制で行います。2015 年 5 月頃にお送りする予定の日体研通信に、運営委員の募集と第 1 回運営委員会の日程を記して、次回大会の運営委員を募集します。是非一緒に創っていきましょう。ちなみに、私たち南山スタッフの来年度の変化ですが、会計をずっと担当してくれていた中尾さんが留学のために来年度は不在となります。津村先生は南山大学の教員ではなくなりますが、委員長としてコミットしてもらえます。どんな変化が起こるのか、是非、運営委員になって、その過程をともに体験していきましょう！

第 16 回日本体験学習研究会全国大会 事務局長 中村和彦

**【第 16 回日本体験学習研究会全国大会 運営委員会】**

委員長:津村俊充 事務局長:中村和彦

委員:伊藤由美子、稲葉久之、小澤由惟、北倉武昭、國武恵、坂中正義、鯖戸善弘、杉山郁子、土屋耕治、中尾陽子、

菱川慎司、古田典子、溝口良子、山田達哉 (五十音順)

(事務局)水野菊代

共 催:南山大学人間関係研究センター

協 力:心理人間学科合同研究室スタッフ(亀垣美由紀・平田麻予・檜原真理子・真野佐知子) および、心理人間学科 学生スタッフ

**【大会運営委員会事務局】**

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18 番地 南山大学人文学部心理人間学科 (中村研究室内)

TEL:052-832-3111(内線 3959) FAX:052-832-3217

E-mail:[nittaiken-jimu@nanzan-u.ac.jp] URL:[http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/nittaiken/]